

話題転換・会話開始機能をもつ 談話標識soと日本語訳

The Discourse Marker *so* as a Topic-changer or a Conversation-starter and
its Corresponding Japanese

松尾 文子*

Fumiko Matsuo

キーワード：談話標識 *so*、話題転換、会話開始、日本語訳

Key words: discourse marker *so*, topic-changer, conversation-starter, Japanese translation

要旨

本稿では、ターンの冒頭で用いられて、話題転換や会話開始の機能をもつ英語の談話標識 *so* と対応する日本語訳を検討する。この *so* の機能には、何が主な機能かを基準に見ると、以下の4つのタイプがある。① 本題や関心事導入がメイン機能 ② 話題転換行為自体がメイン機能 ③ 談話の冒頭で会話開始の糸口を探る ④ 行動転換の合図がメイン機能。それぞれのタイプの *so* を日本語に訳す場合、語用論的に等価な訳語、すなわち当該の文脈において *so* が担う機能を表す日本語にすることが望ましい。上記4つのタイプの *so* はそれぞれ、①「(それ)で」②「ところで」③「(それ)で・ところで」④「さあ・さて」となる。

ターンの冒頭で用いられる *so* の後続部の特徴として、情報を求める疑問文や働きかけ疑問文の多用がある。情報要求疑問文は「(それ)で」「ところで」で、働きかけ疑問文は「さて、さあ」でも見られる。質問することで相手に応答を促して会話が展開し、何らかの働きかけをすることで相手に次の行動を促す。

Abstract

The aim of this paper is to explore the discourse marker *so* as a topic-changer or a conversation-starter and the corresponding Japanese. In the classification based on the main functions, *so* has four types. ① to introduce a main topic or a matter of concern ② the act of changing a topic itself ③ to start a conversation at the beginning of a discourse ④ to change a course of action. When we translate *so* into Japanese, it is appropriate to use a pragmatically equivalent term, that is to say, a Japanese expression which is similar to *so* in function in the context concerned. As for the above mentioned types, the equivalent terms in Japanese would be ① (*sore*)*de* ② *tokorode* ③ (*sore*)*de*, *tokorode* ④ *sate*, *sa-a*.

The feature of the subsequent part of *so* is the frequent use of information-seeking questions and suggestion-making questions. Information-seeking questions are frequently used with (*sore*)*de* and *tokorode*. Suggestion-making questions can be seen with *sate* and *sa-a*. The act of asking a question urges the listener to answer and consequently stimulates the conversation. Making a suggestion encourages the listener to take the conversation in a new direction.

* 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo University of Health Sciences

1. はじめに

談話標識には多機能性という特徴がある。単一の談話標識が複数の機能をもつことが多いのである。ある言語で用いられる1つの談話標識がもつ複数の機能は、別の言語では複数の異なる談話標識で表されることがある。たとえば、英語の well をスペイン語に訳す場合、予想や期待と完全に一致しているわけではないことを表す応答では bueno が、要求の拒否のような好ましくない応答でマイナスのニュアンスを和らげる場合には vamos が用いられる (Schiffrin 2001: 64)。

通例談話標識には核となる意味があり、そこから当該の表現が用いられる文脈に応じて何らかの意味機能が語用論的に生じる。実際の言語使用の場面である文脈を読み取らなければ、談話標識を適切に訳すことはできない。したがって、松尾 (2023) で述べたように、談話標識を翻訳する場合は、語用論的に等価¹な訳、すなわち当該の文脈において英語の談話標識が担う機能を表す訳が望ましい。英語の well はスペイン語では常に bueno、日本語では常に「えーっと」のように、1つの談話標識を2つの異なる言語で1対1に対応させるのは適切であるとは言えない。英語談話標識と翻訳に関しては、松尾 (2023) を参照されたい。²

本稿では、ターンの冒頭で話題転換や会話開始の合図の機能を担う so を扱う。何が主な機能かを基準に細かく見ると、so には4つのタイプがある。それぞれのタイプの so を語用論的に等価な日本語にどう翻訳するのが適切なのかを考える。ターンとは、ある話し手が一度の発話の順番で発するいくつかの発話から構成された単位である。発話は1つの場合も複数の場合もある。ターン開始時の発話は、後続する発話や一連の会話の方向性や話し手の発話の態度を表す。なお、ターンの途中でも話題転換は行われるが、本稿では対象をターンの冒頭で用いられる so に限る。

本稿の構成は以下のとおりである。II. では談話標識 so の概説を示す。III. ～ VI. では so の4つのタイプを順に考察する。VII. では4つのタイプの so と、それぞれに対応する日本語について述べる。VIII. では本稿をまとめる。

II. 談話標識 so

松尾・廣瀬・西川 (2015: 200-201) で記したように、so は元来、発話状況と密着した直示的な語 (deixis) で、形状、数量、様態や程度について「これくらい、その [この] ように、その [この] 程度に」の意を表した。発展的に、指示する内容が文脈の一部となり、前述の内容を受けける代用表現として「そう (する・思う)、本当に [実際] (…が) そうである」の意を表すようになった。程度に関しても、特に発話状況とは関連なしに程度が著しく高いことを表すようになり、「とても、非常に」の意の程度副詞の用法が生じた。さらに so の機能化が進み、現在では前述の内容を受けて論理的な結論を導く接続詞として「その結果、それで、だから」の意で幅広く用いられる。

談話標識の so は、前述の内容を受けて論理的な結論を導く接続詞の so が副詞化したもので、文頭で用いられ、先行文脈から導き出される論理的結論を導入する。³ また、発話と発話、発話と発話の場面や状況などを話し手の推論によって幅広く結びつけ、先行する発話や発話の場面や状況などから推論によって得られる結論を導入する。

so はより大きな単位の発話や談話とも関連して話題調整の機能を担い、新しい話題を導入

したり、話題の転換や話題の終結、会話全体の終了を合図したりする。

Ⅲ. 本題や関心事導入がメイン機能：(それ) で

話題転換機能をもつ so の場合、通例導入される話題は話し手があらかじめ持ち出そうと考えていたものである (Bolden 2006: 672-673, 2008: 318, 2009)。⁴ ターンの冒頭で用いられる場合、情報を要求する疑問文が so に後続する例が圧倒的に多い。何かを問われると相手はそれに応答するのが普通で、相手に話を促すことになる。疑問文のような疑問発話を用いることは会話の参加者が協力して会話を作り上げていく上での方策の1つである。

この機能の so は、日本語では「(それ) で」と訳すことができる。日本語記述文法研究会 (編) (2009: 200-202) では、講義や講演で用いられることばに関して、前もって準備をせずいきなり話すということはなく、どのような話題をどのような順番で提示しようとするかという計画が存在するのが普通で、その意味でも書きことばに近いとする一方で、話しことばの性格も備えているとする。計画的でありながらも即興的に話されるため、講義、講演では話の脱線がしばしばおこる。脱線から話の本筋に戻すときに接続表現「(それ) で」が用いられる。また、「(それ) で」は、話の本筋を意識したときに、間投表現のようにしてよく用いられる。この「話の本筋を意識したとき」は、so にも当てはまる。「で」に関しては、田中 (2018: 135) は、文レベルの「話を促す」用法が談話レベルに応用され、話題を展開したり、前出文脈に言及する用法になる。

次節からは、当該の発話の場面における本題や関心事を初めて導入する場合と、話題を先に言及された本題や関心事に回帰する場合に分けて、論考を進める。

Ⅲ-1. 当該の発話場面で本題や関心事を初めて導入

導入される本題や関心事は誰にとってのものなのか。so によって話し手自身が自分の想定している本題や関心事を導入する場合と、相手が想定している本題や関心事に話が進むように話し手が仕向ける場合がある。すなわち、前者は当該の発話の話し手自身の本題や関心事、後者は当該の発話の聞き手の本題や関心事である。

まず、話し手自身が自分の想定している本題・関心事を導入する例を挙げる。次例は、弁護士 David と同僚の車中での会話である。同僚があるアパートの前で車を止める。David がアパートの住人とそこに来た理由を同僚に尋ねる。巨大製薬会社が販売した Krayoxx という薬の副作用で死者が出たことから、その同僚は製薬会社を相手に集団訴訟を起こして一儲けしようと企んでいる。同僚は、アパートの住人の夫はその薬を服用して死亡した可能性があると考えている。それで事情を聴きに来たのだ。

- (1) "And who lives here?" David asked, taking in the run-down neighborhood. "Here liveth [sic.] a lovely woman by the name of Iris Klopeck, [...]" [...]"So, why are we here?" David asked. "Krayoxx, my friend, Krayoxx. I want to talk to Iris and see if by chance Percy had been on the drug when he died. If so, then voilà! We have another Krayoxx case, worth somewhere between two and four mill. Any questions?" —Grisham, *Litigators* (「それから、ここには誰が住んでるんです？」デイヴィッドは荒れ果てた界隈を眺めながら尋ねた。「ここにはアイリス・クロペックという名の美しいお方がお住まいになっておられる。[...]」[...]「それで、ぼくたち

はなぜここへ？」デイヴィッドは尋ねた。「クレイオックスだよ、わが友、クレイオックスだ。アイリスと話をして、もしかしたら（夫の）パーシーが亡くなった時にクレイオックスを服用していたのかを確かめたいんだ。もしそうなら、やったぜってことさ!クレイオックス訴訟の原告がまた1人増える。200万ドルから400万ドルの価値がある原告がね。他に質問は？」)

David はアパートの住人に関する情報を得た後、さらに so に続けて本題であるアパートに来た理由を質問している。

次例は、ある殺人事件の捜査を担当する Grunshaw 警部が Akira Anno という作家がトークショーを開いている書店にやって来て、事情聴取をする場面である。警部は彼女に殺人があった時にどこにいたかと尋ねる。

- (2) 'We need to have a few more words, Ms. Anno. Do you mind?' 'Does my opinion really matter?' 'Not really. Is there somewhere we can go?' One of the managers showed us downstairs. [...] Once we were settled, Grunshaw weighed in with the obvious question that had brought her here. 'So where were you on Sunday night, Miss Anno?' 'I told you ...' Akira began. —Horowitz, *Sentence* ([グランショー警部]「少しお話を聞く必要があるんです、ミズ・アンノ。構いませんね?」「私の意見なんか本当に重要なんですか?」「大したことではありません。どこか、話のできる場所がありますか?」店の責任者の1人が、私たちを地下へ案内してくれた。[...] 全員がそれぞれの席に落ち着くと、グランショー警部はまず、ここにやって来ることになった当然聞くべき質問から切り出した。「それで、日曜の夜、あなたはどこにいたんですか、ミズ・アンノ?」「前(殺人事件が起こった直後)にもお話したけど…」アキラは話し始めた。)

波線部から分かるように、この質問は、警部が Akira Anno がトークショーを開催している書店に来た目的、つまり警部があらかじめ想定している最も関心のある話題である。

次に、相手が想定している本題や関心事に話が進むように話し手が仕向ける例を挙げる。次例は、結婚情報誌の発行人兼編集者の Andy が有名女優の Olive にインタビューする場面である。妊娠中の Andy を見て Olive は赤ん坊の話始める。

- (3) 'So when are you due? By the looks of it, any second.' Andy laughed. 'By the feel of it, too. But really not for another few weeks.' Olive gazed longingly at her belly. 'I can't wait to get pregnant. What are you having?' 'I don't know yet,' she said. 'I like the idea of a surprise at the end of all that work.' A look flashed across Olive's face, an expression Andy couldn't quite place. Something told her she should change the subject immediately, but Olive beat her to it. 'So, where do we begin?' she asked. 'Do you, like, want to hear about my entire childhood? Should I start with conception?' —Weisberger, *Revenge* («ところで、予定日はいつ?その様子じゃ、今にも産まれてきそうね」アンディは笑った。「自分でもそんな感じがするわ。でも、予定日は数週間後なんです」オリヴはうらやましそうにアンディのお腹をながめた。「できるだけ早く子どもが欲しいの。男の子、女の子どっちなの?」「まだ聞いてないんです。産まれて初めて贈り物の中身が分かると思うのもいいかなと思ってるんです」とアンディは答えた。オリヴの顔に、アンディには今ひとつ何だか分からない表情が一瞬よぎった。アンディはすぐに

話題を変えるべきだと思ったが、オリーブに先を越された。「で、どこから始める？そうね、私の子どもの頃の話全部聞きたい？母のお腹の中にいた時のことから始めるべきかしら」と尋ねた。）

Andy は自分のプライベートの話が続けるよりも、話題を変えて本題に入りたい。そう思っていると、Olive の方からインタビューの目的である本題に入れるように仕向けてくれた。冒頭の So については、後述の(8)を参照されたい。

III- 2. 先に言及された本題や関心事に回帰

本節では、話題を先に言及された本題や関心事に回帰する場合を考える。このタイプでは、相手が先に触れていた本題や関心事を、話し手が再導入する例が多く見られる。会話を円滑に進めるための話し手の気遣いであると言える。

次例は、あるホテルで8年前に起きた殺人事件の調査を依頼された Susan が、殺害された宿泊客 Frank のことを尋ねようと、Frank の妹 Joan 夫妻の自宅を訪れる場面である。夫の Martin がお茶の準備をしている間に、Susan は夫妻の暮らす村について Joan に尋ねる。Martin がお茶とビスケットを持ってテーブルに着くと、彼の方から本題を切り出した。

- (4) 'I'm asking questions about something that happened quite a long time ago. Did you by any chance know a man called Frank Paris?' 'Yes. I knew Frank.' He noticed he was still holding the paintbrush and put it down. 'Why don't you come in and have a cup of tea?' [...] 'Builder's or peppermint?' Martin asked, flicking on the kettle. But before I could answer, a woman came into the room. [...] 'This is Joanne,' Martin said. He turned to her. 'And this is Susan. She's come over from Branlow Hall.' 'Branlow Hall?' 'Yes. She wants to know about Frank.' [...] 'I was just making Susan some tea,' Martin said. 'What will it be?' 'Builder's would be fine,' I said. [...] Joanne and I sat down at the table and I asked her about Westleton while Martin made the tea. [...] I was glad when Martin joined us. Unlike her, he was completely relaxed. He'd even brought a plate of biscuits. 'So why are you interested in Frank?' he asked. —Horowitz, *Moonflower* (「ずっと前に起きた事件について、お聞きしたいことがあるんです。ひょっとして、フランク・パリという男をご存知じゃないですか?」「ええ、知っていますよ」彼は、自分がまだペンキ用の刷毛を手をしていることに気づいて置いた。「中に入ってお茶でもいかがですか?」[...]「ビルダーズ・ティ (ティーバッグで入れた濃いめのお茶) か、それともペパーミント・ティ?」湯沸かしの電源を入れながら、マーティンは尋ねた。私が答えるより先に、女性がキッチンに入ってきた。[...]「ジョアンです」マーティンが紹介した。それから、妻の方を向いた。「こちらはスーザン。ブランロウ・ホールから訪ねて来られた」「ブランロウ・ホールから?」「そうだよ。フランクのことを知りたいそうだよ」[...]「ちょうど、スーザンにお茶を淹れようとしてたんだ」と、マーティンが言った。「お茶はどちらにしますか?」「ビルダーズ・ティをお願いします」と私は答えた。[...] ジョアンと私はテーブルについて、マーティンがお茶を入れている間に、ウェスルトン (村) についてジョアンに尋ねた。[...] マーティンがやって来て、私はほっとした。妻とは違い、すっかりくつろいだ態度だった。ビスケットの皿を持って来てくれさえた。「それで、どうしてフランクに興味があるんです?」マーティンが尋ねた。)

当該の発話時点で Martin はすでに Susan にとっての本題（Frank のこと）を知っている。会話を続ける準備が整ったところで、Martin はその話題を再度持ち出している。Martin が口火を切ってくれたことで、Susan は本題に入って会話を続けやすくなる。

次例は、若手小説家の Mercer と調査会社で盗難美術品を担当している Elaine の会話である。Mercer は、Princeton大学の図書館から盗まれた世界で最も価値があるとされる作品の原稿の捜査協力を Elaine から依頼されている。この時点の Mercer は、経済的に余裕のある状況ではない。

- (5) "[...] Look, Mercer, I'm in town until tomorrow morning, when I fly back to Washington. I'd love to finish our conversation over dinner." "No thanks. You've got the wrong person for this." [...] "[...] Please, one more chance." Mercer could not deny, to herself anyway, that the money was an issue. A really big issue. She wavered for a second and said, "So what's the rest of the story?" — Grisham, *Camino*（「[...] あの、マーサ、私は明日の朝までこの街にいて、それから飛行機でワシントンに戻るの。夕食を食べながらさっきの話の続きをしたいんだけど」「お断りするわ。あなたはこのことに関して間違えた相手を選んでる」[...]「[...] お願い、もう一度チャンスをくれないかしら」マーサは報酬が問題だということを自分自身に対してはどうしても否定できなかった。とても大きな問題だ。マーサは一瞬迷ったがこういった。「で、どうい
う話の続きがあるの？」)

「さっきの話の続きをする」という相手（Elaine）にとっての本題を分かっている Mercer が、so 以下でその本題を導入するきっかけとなる発言をしている。

次は、話し手が先に触れた関心事を自ら再導入する例である。Judith Matheson が主催する文芸フェスティバルが行われる島で、フェスティバルの関係者でオンラインカジノのCEOである Mesurier が殺害された。Marc は料理人で、そのフェスティバルに参加していた。語り手である作家の私も、友人で探偵の Hawthorne と共に参加していた。Hawthorne は Mesurier の邸宅で関係者に事情聴取をしている。

- (6) 'What's happened?' 'Let's talk in the kitchen,' Hawthorne suggested. 'I've made some tea,' Judith Matheson said. [...] The Mathesons followed us into the kitchen, then left us together: Hawthorne and me and our two witnesses. 'So what's going on?' Marc demanded 'Has someone died?' 'Charles le Mesurier has been killed,' Hawthorne told him. — Horowitz, *Line*（「マーク」「何があったんだ？」「厨房で話そう」ホーソーンが提案した。「お茶を入れておきましたよ」とジュディス・マシスンが言った。[...] マシスン夫妻は私たちに続いて厨房に入ってきたが、私たちを残して出て行った。私とホーソーンと事件の関係者2人を残して。「それで、何が
あったんだ？」マークが聞いた。」「誰か死んだのか？」「チャールズ・ル・メジュラーが殺された」とホーソーンが彼に言った。）

まずは引用部の冒頭で、Mark が「何があったのか」と Hawthorne が邸宅にやって来た目的を尋ねる。邸宅の玄関ホールから厨房に移動し、Judith のお茶を淹れておいたとの発話でいったん話題が逸れる。その後 Marc は再び自分の関心事を持ち出して、Hawthorne に情報を提供す

るよう求める。

IV. 話題転換行為自体がメイン機能：「ところで」

本章では、新たな話題を導入するが、話し手に何らかの事情や思惑があって、話題を転換するという発話行為を遂行すること自体が主な目的である例を見る。

このタイプの so では、「ところで」の訳語が適切である。「ところで」に関しては多くの論考がなされていて、主に以下に示す特徴が挙げられる。

- ① 談話の流れを中断する。中断することだけを示し、前後の話題の関係については特定しない（日本語記述文法研究会（編）2009: 117）。
何が後続するかは聞き手にはまったく予測不可能である（川越 1995: 477）。
- ② 情報を要求する疑問文や問いかけ文（に準じる疑問文）が後続することが多い（甲田 1995: 35-36; 川越 2000: 131, 1995: 473; ）。
- ③ 話題の切替が基本機能（川越 2000: 140; 甲田 1995: 40）。
- ④ 途中で思いついた新しい話題を持ち出す（川越 2000: 134）。

例を見よう。次例は、Andy と夫の Max の電話での会話である。

- (7) 'It's an honor,' Andy said. 'But there are definitely some worrisome details.' 'Nothing you can't work out, I'm sure. I can recommend a great lawyer, someone from an entertainment firm we use. They can iron out any issues.' Andy kneaded her hands. Max was making it sound like a done deal when they'd only just gotten the offer that morning. 'So when's everyone getting there?' she asked, trying to change the subject. 'And do you think suspect anything?' 'I told you, I've got it all under control. There's a husband-and-wife chef team here now, and they're whipping up a feast. Everyone's getting here in an hour. They're all going to flip when we tell them about the baby, and now we have this incredible news to share, too.' 'No. I don't want to mention anything about —' Weisberger, *Revenge* (「(アンディが立ち上げた出版社の買収を一流出版社が申し出てきたことは) 名誉なことだけれど」アンディは答えた。「でも、すごく気になる点があるのよ」「きみがうまくできないことなんてないに決まってるよ。有能な弁護士を紹介してあげるよ。うちの会社も使ってるエンターテインメント関係を扱う法律事務所の弁護士だ。どんな問題でも解決してくれる」アンディはもみ手をした。この日の朝に申し出を受けたばかりなのに、マックスはすでに契約が成立したような口ぶりだった。「ところで、みんな何時に集まるの?」話題を変えようとこう尋ねた。「みんな何か感づいていると思う?」「前にも言ったけど、ぼくが万事うまくやってる。シェフ役の夫婦がここに来ていて、手早くごちそうを作ってる。あと1時間ほどでみんな来るよ。赤ちゃんのことを知らせたら、全員が大騒ぎするぞ。おまけに、このすばらしいニュース（出版社の買収）も知らせられるんだ」「だめよ、この件はまだ話したくないし—」)

Andy は結婚情報などを扱う出版社を立ち上げた。一流の出版社から買収の申し出を受けたが、それを受諾するかどうかの結論はまだ出ていないので、これ以上その話題を続けたくない。そ

ここで、仕事のことからプライベートなこと（赤ん坊が産まれることを集まってくるみんなに知らせたい）へ話題を変えようと試みるが、うまく行かず、結局仕事の話に戻ってしまう。

「ところで」に該当する英語の談話標識として多用されるのは、by the way である。so と by the way ではどのような違いがあるのだろうか。次例は、ある施設に入所している Catherine と Tommy の会話である。この場面の前に、食堂で Tommy が Catherine に聞いてほしいことがあると話し始めたが、Catherine は聞きたくない内容だったので、一方的に話を打ち切った。それでも Tommy は話を聞いてほしいので、食事が終わったら施設の敷地内の池に行くのでそこに来てくれと言う。Catherine は池まで行き、しばらくとりとめのない会話をした後、その場を立ち去るふりをする。その時の Tommy の様子を見て、いかにも今しがたふと思い出したかのように尋ねる。

- (8) [...], but I'd kept a my posture looking very provisional, and at one point made a move to carry on with my stroll. I saw a kind of panic cross Tommy's face then, and I immediately felt sorry to have teased him, even though I hadn't meant to. So I said, like I'd just remembered. 'By the way, what was that you were saying earlier on? About Miss Lucy telling you something?' 'Oh...' Tommy gazed past me to the pond, pretending too this was a topic he'd forgotten all about. 'Miss Lucy. Oh that.' —Ishiguro, *Never* ([...] しかし、たまたま散歩しているだけだという態度をとり続け、ある時点でさらに散歩を続けてその場を離れようとするという動きまでしました。すると、トミーの顔にパニックに似た表情が現われるのを見たとき、そのつもりはなかったとしてもからかったことをすまなく思いました。それで、今思い出したという口調で、こう尋ねました。「そういえば、さっき言おうとしたのは何なの？ルーシー先生が何か言ったとかって」「ああ…」トミーは私の背後の池を見やって、自分も忘れていた話だというふりをしました。「ルーシー先生な。そのことな」)

so と同様に、by the way も話題の調整に関わる機能をもつ。by the way が本来もつ「ふんについて」というニュアンスを利用して、導入する話題は表面上はそれほど重要ではないことを示す。それによって、相手に対する丁寧さや気遣いを表すことができる（西川 2011: 72, 76; 廣瀬・松尾・西川 2022: 79-80; 松尾・廣瀬・西川 2015: 135）。この例では、話し手（Catherine）自身の態度が原因だとはいえ、Tommy を傷つけたことをすまなく思って気遣いを示して、今しがた思い出したというふりをして、「ところで」と本題を切り出している。Catherine の気遣いに気づいた Tommy も同じように、自分もその話はたった今思い出したという態度を装っている。Tommy の発する Oh によって、自分がその話題を今しがた思い出したと相手に伝える。この例では、相手にそう思わせている。⁵ by the way が常にこのような相手を気遣うポライトネスを表すわけではないが、by the way では話し手のこのような談話戦略的使用が見られることがある。

V. 談話の冒頭で会話開始の糸口を探る「(それ) で・ところで」

本章では、話し手が談話の冒頭で会話を始める糸口を探る際に用いられる so を見る。このタイプの so の訳語としては、話を促す機能をもつ「(それ) で」(田中 2018: 135) が考えられる。また、先行部に発話がなく、話しはじめいきなり用いられる「ところで」もある（現代日本

語記述文法研究会(編) 2009: 115)。

次例は、料理教室の初心者コースでの Andy と Emily の会話である。Andy は Emily もその教室に通っているとは思っていなかった。インストラクターにペアを組むように指示される。Andy は、以前一緒に働いていた職場を Emily に連絡せずに辞めたので、Emily が腹を立てていることは分かっている。Andy はきまり悪いという気持ちはあるが、思い切って声をかける。

- (9) They moved wordlessly into position side by side, and when Emily settled into a rhythm of slicing zucchini into matchsticks, Andy forced herself to say, 'So, how is everything?' 'Everything? It's fine,' Emily still excelled at conveying that she found every word Andy uttered extremely distasteful. —Weisberger, *Revenge* (言葉もなく横並びになり、エミリがズッキーニを調子よく千切りし始めると、アンディは勇気を出して声をかけた。「で、最近はどう?」「どうって。順調よ」あなたの言うことすべてがひどく不愉快だとアンディに伝えるのが、エミリは今でも上手だった。)

Andy の問いかけがきっかけとなって、互いの近況を話し始める。相手に応答を促すことで会話が始まっている。

次例は、展示されている絵を見つめている Darien に Bud が近づいて声をかける場面である。

- (10) BUD: *So* what do you see in this? DARIEN: Purity. Innocence. —*Wall* [映画台本] (バッド: で、この絵、どう思う? ダリアン: 純粹。潔白ってとこかな。)

Darien は Bud のガールフレンドで、ある人物の美術系コンサルタントを務めている。両者が同じ絵を見ていて Darien が美術に造詣が深いということを前提に、Bud が Darien に展示されている絵に関して問いかけることによって、それに対する応答を促し、会話が始まっている。

次例は、物語の語り手である「私」と文芸フェスティバル主催者の Judith の会話である。「私」はそのフェスティバルに友人で探偵の Hawthorne と共に参加している。フェスティバルに参加する作家たちと Judith が、空港からマイクロバスで宿泊するホテルに向かう。ホテルへの道中で、Judith がフェスティバルの予定などを話す。ホテルに到着してそれぞれの部屋へ行く。ロビーで Hawthorne と後で会おうなどと話して別れたあとの発話である。

- (11) The other writers had piled in behind Hawthorne, eager to get to their rooms, and I wandered into the lounge, where I found myself alone with Judith. For a few moments we looked at each other uncertainly. I decided to break the ice. 'So this is your first festival,' I said. 'Yes. We have the history festival earlier in the year, but this is our first crack at general fiction and poetry.' —Horowitz, *Line* (他の作家たちは、早く自分の部屋に行きたがって、ホーソーンの後にとっと続いた。私はふらりとロビーに入り、気が付くとジュディスとふたりきりになっていた。どうしようかと、お互い相手の顔を見合った。私は意を決して自から口を開いた。「ところで、今回は最初のフェスティバルですね」「ええ、そうなんです。今年の初めには歴史小説のフェスティバルを開いたんですけど、一般小説と詩に関しては、今回が初めての試みなんです」)

話し手は会話を始める糸口をつかもうと、とりあえず両者の共通の話題であるフェスティバル

のこをもち出す。そこから会話が展開する。この「ところで」では、現場文脈の内容から転換が行われている（現代記述文法研究会（編）2009: 115）。⁶ 現場文脈とは、発話の場面のことである。ここでは、お互い相手の顔を見合うという行動から、今回のフェスティバルの話を始めるといふ言語行動に転換が起こっていることが示されている。

VI. 行動転換の合図がメイン機能：「さて・さあ」

本章では、話題転換より新たな行動を促す合図としての機能に重点が置かれている so を見る。この機能では、働きかけ疑問文や let's で始まる命令文といった、相手に新たな行動を起こすことを促す発話が後続することが多い。

新たな行動を起こす合図となる英語の談話標識として、now が挙げられる。now は談話の場面・局面・段階の移行を示し、このタイプの so と同様に会話の参加者が新たな行動を起こす際に多く用いられる。Aijmer (2002: 71) によると、now の特徴として、あらかじめ会話の進行の手順が決まっているという計画性が見られ、形式ばった会話で好まれる。筆者が収集した例を見る限りでは、so にはそのニュアンスはあまり感じられない。so の場合は、後続部で表される行動を促すことが、当該の発話場面において適切な行為であると話し手が結論づけていると考えられる。

このタイプの so の訳語としては、「さて」が適切である。「さて」は、行動を転換して新しい行動を起こす際に用いられる（日本語記述文法研究会（編）2009: 118; メイナード 2005: 323-324; 長谷川 2000: 27）。また、プロットに沿った展開で用いられる傾向がある（長谷川 2000: 28）。

その他に、「さあ」という訳語も考えられる。「さあ」は、聞き手に動作・行為を促すときの掛け声である（日本語記述文法研究会（編）2009: 160）。語感としては、「さて」よりも「さあ」の方が、新たな行動を促す話し手の強い気持ちが表される。

例を見よう。Susan は、依頼を受けてあるホテルで8年前に起きた殺人事件のことを調べている。彼女は、当時ホテルの事務責任者だった男性に話を聞く。

- (12) As we shook hands, his eyes travelled over me and I felt positively dowdy. By contrast, he crooned over the bicycle as he chained it to the rack. 'So, Susan, are you going to have some breakfast?' He had one of those exaggerated, sing-song Australian accents. 'They've got a decent café and I get a discount.' —Horowitz, *Moonflower*（握手をしながら、彼は私の頭のとっぺんからつま先まで視線を走らせる。私は自分がものすごく野暮ったく思えた。それに対して、彼はチェーンで自転車をラックに留めながら、ご機嫌そうにハミングしていた。「さて、スーザン、朝食でもどうですか？」大げさなほどの抑揚のあるオーストラリアなまりだった。「なかなかいいカフェがあって、ぼくは割引が効くんですよ」）

Susan が待ち合わせの場所に着くと、男性が話を始める。次の行動を始める合図として、so が用いられている。

次例は(5)と同様に、若手小説家の Mercer と調査会社で盗難美術品を担当している Elaine の会話である。Mercer は、Princeton大学図書館から盗まれた世界で最も価値があるとされる作品の原稿の捜査協力を Elaine から依頼されていて、FBI もその捜査に関係している。しかし、

Mercer は捜査の現状がどうなっているか分からない。Graham と Rick は Elaine の部下である。

- (13) At 2:15, Mercer was loaded in a car with Rick behind the wheel and Graham riding shotgun and Elaine in the rear seat with her. They followed an SUV loaded with FBI agents off the island and in the direction of Jacksonville. On the bridge over the Camino River, Mercer broke the ice with an unpleasant "So, let's have it. What's going on?" —Grisham, *Camino* (2時15分にマーサは車に乗せられ、リックが運転し、グレアムが助手席に座り、イレインがマーサと一緒に後部座席に座った。彼らはFBIの捜査員を乗せたSUVの後に続いて島を離れ、ジャクソンヴィルの方向に向かった。カミーノ川に架かる橋の上で、マーサが不快そうな「さあ、教えてちょうだい。何が起こってるていうの?」ということばで沈黙を破った。)

Mercer は沈黙を破って、相手に新たな行動を起こすことを求めている。「さあ」と訳すことで、Elaine がなかなか状況を説明してくれないことに対する Mercer の苛立ちと、説明を求める強い気持ちを表すことができる。

VII. 話題転換・会話開始の機能をもつ so と対応する日本語

話題転換・会話開始機能をもつ so に関して、以下の4つのタイプについて述べてきた。

- ① 本題や関心事導入がメイン機能
- ② 話題転換行為自体がメイン機能
- ③ 談話の冒頭で会話開始の糸口を探る
- ④ 行動転換の合図がメイン機能

これらのうち、①～③は話題を展開させるもの、④は会話において局面を新たに移行させるものである。それぞれに対応する日本語は、①「(それ)で」②「ところで」③「(それ)で・ところで」④「さて・さあ」である。これを見ると、so の守備範囲の広さが分かる。

「ところで」は談話の流れを中断する機能があり、前後の話題の関係は特定しないが(日本語記述文法研究会(編)2009:117)、so では当該の会話における本題や関心事を導入することが多い。また、「ところで」は途中で思いついた新しい話題を持ち出す(川越2000:134)、この今「思いついた」というニュアンスは、英語の談話標識では by the way で表すことができる。「さて」は行動転換を示し(日本語記述文法研究会(編)2009:118;メイナード2005:323-324;長谷川2000:27)、プロットなどに沿った展開で用いられる傾向がある(長谷川2000:27)、so にはこの傾向はあまり見られない。プロットに沿った展開や、会話の手順が決まっている計画性は(Aijmer 2002:71)、英語の談話標識では now で見られる。

VIII. おわりに

談話標識 so は話題調整の機能をもつ。ターンの冒頭では話題転換や会話開始の合図になる。so を何が主な機能かを基準に詳細に検討すると、本稿で述べた4つのタイプがあり、それぞれに対応する日本語が考えられる。語用論的に等価な訳語、すなわち当該の文脈において so

が担う機能を表す日本語にすることが適切である。日本語の側から so を見ると、so の守備範囲の広さ、機能の多様さが分かる。

ターンの冒頭で用いられる so の後続部の特徴として、情報を求める疑問文や働きかけ疑問文の多用が挙げられる。この特徴は、日本語の「(それ)で」「ところで」でも見られる。会話を開始したり継続したりして話題を展開させるためである。通例何かを問うということは相手に応答を促すことになり、それによって会話が展開する。疑問文は会話の参加者が協力して会話を作り上げていく上での方策の1つである。また、何かを働きかけることで相手の行動を促す。ターンの冒頭はそれ以降の会話の展開の方向を示す部分であり、その位置で so を用いることによって、会話が展開する道筋が明らかになる。

今後の課題として、「(それ)で」はタイプ②④では使えない、あるいは使いにくいとすれば、その理由は何なのかを明確にすることと、so の日本語訳における等価性の分析を精緻化することがある。

*謝辞：本稿の内容に関することのみならず、今後の研究の深化につながる有益なコメントをくださった査読者に感謝いたします。

注

- 1 言語構造の異なる二言語同士を全く同じ意味で翻訳することは不可能であるが、翻訳では起点テキスト（原文）と目標テキスト（訳文）の間に全く関係がないことはありえず、何らかの点で「等価 (equivalence)」性をもつ。「等価」のレベルやタイプに関しては、松尾 (2023: 41-42) を参照されたい。
- 2 Aijmer (2013: 92) は、adversative や connective の機能をもつ英語の談話標識 of course をスウェーデン語に翻訳する例を用いて、機能の特定化における翻訳の有効性について、次のように述べている。「翻訳は語彙項目が多機能である場合に、特に興味深い。翻訳者は当該の文脈における語彙項目の意味を解釈しなければならないからである。したがって、その項目が用いられる位置、連語関係や言語的・非言語的文脈のような特徴に基づいて言語学者が意味を分析する際に、翻訳はその分析を補完するものだと考えられる。」ある語彙項目を異なる言語にどのように翻訳するかを考えることは、その語彙項目がもつ意味や機能を考える手掛かりとなる。
- 3 so は品詞分類の観点では接続詞になる。一方、談話標識の研究者である Blakemore や Schiffrin などは、機能分類の観点から、接続詞の so を談話標識として扱っている。本稿著者として現段階では、so は接続詞的（由来）表現の談話標識であると考えられる。
- 4 査読者から以下の指摘を受けた。今後検討していきたい。so が導入する話題について、通常話し手と聞き手両者の想定にあることを前提にしているのではないか。したがって、驚きを伴わずにその話題を導入できる。また、発話時に聞き手の頭の中で顕在化されていないとしても共有化されている話題であり、日本語でも「それで」というダイクシス表現が使用できるのではないか。
- 5 oh のこの用法に関しては、松尾・廣瀬・西川 (2015: 230-231)、及び廣瀬・松尾・西川 (2022: 79) を参照されたい。
- 6 現場文脈の内容からの転換の例は、以下のとおりである。
[友人と食事をする事になり、とりあえず歩きはじめて] ところで、何、食べる？

ここでは、歩くという行動から、何を食べるかを確認するという言語行動に転換が起こっていることが示されている（現代記述文法研究会（編）2009: 115）。

引用作品

〈小説〉（〔 〕内は本文の引用中での表記を示す）

Grisham, J. *The Litigators*. 2011 [*Litigators*]

— *Camino Island*. 2019 [*Camino*]

Horowitz, A. *The Sentence is Death*. 2018 [*Sentence*]

— *Moonflower Murders*. 2020 [*Moonflower*]

— *A Line to Kill*. 2021 [*Line*]

Ishiguro, K. *Never Let Me Go*. 2005 [*Never*]

Weisberger, L. *Revenge Wears Prada*. 2013 [*Revenge*]

〈映画台本〉

Wall Street. 1994 [*Wall*]

参考文献

Aijmer, K. 2002. *English Discourse Particles: Evidence from a Corpus*. [*Studies in Corpus Linguistics*] Amsterdam: Joh Benjamins.

— 2013. "Analyzing modal adverbs as modal particles and discourse markers." In L. Degand, B. Cornillie and P. Pietrandrea(eds.) *Discourse Markers and Modal Particles: Categorization and Description* (pp.89-104). Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Blakemore, D. 2002. *Relevance and Linguistic Meaning*. Cambridge: Cambridge University Press.

Bolden, G. B. 2006. "Little words that matter: Discourse markers 'So' and 'Oh' and the doing of other-attentiveness in Social Interaction." *Journal of Communication* 56, 661-688.

— 2008. "So what's up?": Using the discourse marker *So* to launch conversational business." *Research on Language and Social Interaction* 41(3), 307-337.

— 2009. "Implementing incipient actions: The discourse marker 'so' in English conversation." *Journal of Pragmatics* 41, 974-998.

長谷川哲子. 2000.「転換の接続詞『さて』について」『日本語教育』105, 21-30.

廣瀬浩三・松尾文子・西川眞由美. 2022.『英語談話標識の姿』東京: ひつじ書房.

川越菜穂子. 1995.「ところで、話は変わるけど—Topic shift markerについて—」仁田義雄（編）『複文の研究（下）』東京: くろしお出版.

— 2000. 「『話題転換』をあらわす接続表現について—『ところで』と『とにかく』」『人間文化学部研究年報』64, 130-142. 帝塚山学院大学.

甲田直美. 1995.「転換を表す接続詞『さて』『ところで』『では』をめぐる」『日本語と日本文学』21, 31-42. 筑波大学.

松尾文子. 2023.「英語談話標識と翻訳」『札幌保健医療大学紀要』9, 35-52.

松尾文子・廣瀬浩三・西川眞由美. 2015.『英語談話標識用法辞典: 43の基本ディスコースマーカー』東京: 研究社.

メイナード・K. 泉子. 2005.『談話表現ハンドブック—日本語教育の現場で使える』320-328. 東京: くろしお出版.

- 日本語記述文法研究会（編）. 2009. 『現代日本語文法 7 第12部：談話 第13部：待遇表現』
東京: くろしお出版.
- 西川真由美. 2011. 「話題の転換を表す談話標識」 *Setsunan Journal of English Education* 5, 69-90. 摂南大学英語教室.
- Schiffrin, D. 2001. "Discourse markers: language, meaning and contest." In D. Schiffrin, D. Tannen and H. E. Hamilton(eds.) *The Hand book of Discourse Analysis* (pp.54-75). Oxford: Oxford University Press.
- 田中奈緒美. 2018. 「談話理解の視点から見た談話開始のための談話標識の分類」『日本語教育』170, 130-137.